



佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施(4)

【概要】

不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度 4 回目の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に平成 17 年から行なっています。

本年度第 4 回目の理科実験教室は、令和元年 9 月 20 日(金)に循環物質化学専攻およびシステム創成科学専攻の大学院生と理工学部機能物質化学科の学部生が、理工学系化学部門 長田聡史 准教授とともに、「試験管の中が冬景色!？」と題して物質の溶解度を利用した実験を行いました。

最初に教科書に載っている簡単な実験として、食塩とミョウバンの温度による溶解度差を実際に確かめました。次に塩化アンモニウムの大きな溶解度差と対流を利用した実験で、試験管の中に雪が降っているような様子を観察しました。また加熱溶解にかかる時間の間に、試験管のなかで硝酸鉛水溶液とヨウ化カリウム水溶液を混合する実験も行い、ヨウ化鉛ができることで金色の粉が舞うような様子を観察しました。いずれの実験にも生徒たちは驚きの声を上げていました。最後に、18 世紀には大気状況による溶解度差を利用した「ストームグラス」というものが天気予報の道具として用いられていたことを紹介して実験を終えました。



「理科実験教室」の様子